就学前児童票（案）

4. 宛名のお子さんの病児・病後児保育についてお伺いします。

問12　保育サービスを利用している保護者の方にお伺いします。この１年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の保育サービス（問7-2の定義参照）が利用できなかったことはありますか。

1. あった　（→　問12-1,2へ）
2. なかった　（→　問13へ）

この１年間の、お子さんが病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかった場合の対処方法と、仕事を休んだ日数はどれくらいありましたか。父親、母親等それぞれについてお答えください。

問12-1　この１年間の対処方法とそれぞれの日数は概ね何日ですか。あてはまる答えの番号すべてに○をつけ、それぞれの日数を記入してください。
（半日程度についても１日としてカウントしてください）

問12-2　「父親または母親が休んだ」、「親族・知人に預けた」欄に回答された方に伺います。その際、できれば施設に預けたいと思われた日数はどれくらいありますか。枠内に日数を記入してください。

1. 父親が休んだ　□□　日
2. 母親が休んだ　□□　日
3. （同居者を含む）親族・知人に預けた　□□　日

できれば施設等に預けたい　□□　日

4. 就労していない保護者がみた　□□　日
5. 病児・病後児の保育サービスを利用した（保育所で実施しているサービスを含む）　□□　日
6. ベビーシッターを頼んだ　□□　日
7. ファミリーサポートセンターにお願いした　□□　日
8. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた　□□　日
9. その他（　　）　□□　日

病児・病後児保育の推計ニーズ量の算出のための項目。現状の利用量は、問12-1の選択肢５の日数。潜在ニーズ推計のため、子どもが病気やケガで通常の保育サービスが受けられなかったときの対処方法及び日数を把握。父親・母親が休んだ日数及び親族・知人に預けた日数のうち、施設等に預けたい日数を病児・病後児の潜在利用ニーズとして用いることも可能。自治体の判断により、潜在ニーズをより広くとってもかまわない。